

12/26 マタイの福音書 2 章 13-23 節「彼はナザレ人と呼ばれる」

小池宏明牧師

マタイの福音書では「預言者を通して、・・・語られたことが成就するためであった」という表現が繰り返し出てくる。この福音書全体で 11 回ある。そのうち 2 章では 3 回も出ている。これは、マタイがこの福音書を旧約聖書に精通するユダヤ人宛てにまとめたからだ。旧約聖書の預言が「今、実現しているのだ！」と強調して伝えようとしている。

*ナザレとは

2 章 23 節「そして、ナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちを通して「彼はナザレ人と呼ばれる」と語られたことが成就するためであった。」
実は、旧約聖書には、ナザレという町も、ナザレ人も出て来ない。ナザレという町は、旧約と新約の間の中間時代に建てられた新しい町で、イエス様が誕生した当時は、ローマ軍の駐屯地になっていた。道徳的にも墮落していて、ユダヤ人から嫌われた町だった。主イエス様の弟子になる前のナタナエルは、ヨハネの福音書 1 章 46 節で「ナザレに何の良いものが出るであろうか」と言っている。これは当時、ことわざのように広まっていた言葉だった。マタイはこの言葉と関連付けて、イエス様がナザレに住んだことが、非常に虐げられているキリストの姿を預言したと捉えたのだ。

*キリストが砕かれたゆえに

イザヤ書 53 章 2-5 節「彼は主の前に、ひこばえのように生え出た。砂漠の地から出た根のように。彼には見るべき姿も輝きもなく、私たちが慕うような見栄えもない。彼は蔑まれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で、病を知っていた。人が顔を背けるほど蔑まれ、私たちも彼を尊ばなかった。まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みを担った。それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちが癒やされた。」主イエス・キリストは救い主で、ユダヤ人が待ちに待ったメシヤである。それなのに、拒絶されて、虐げられて、蔑まれて、病を負い、痛みを担い、打たれて、苦しめられて、十字架の死にまでも従われた。それゆえ、主イエス様に信頼する者は救い出されて、癒やされて、平安が与えられるのだ。
主イエス様は、私たちが、罪の支配の中で、悲しみ、苦しんでいることをご存知で、まことに低く、謙って、私たちに代わって苦しみ、悲しみ、ついに身代わりに死んで下さった。私たちが主の犠牲のゆえに生かされ、救われた。クリスマス恵みに心から感謝を捧げよう。

